

議事録

審議会等名	つくばみらい市水道運営審議会
開催日	令和6年10月17日（木曜日）
開催場所	つくばみらい市役所谷和原庁舎 第2会議室
出席者	出席委員 青木謙二、秋田恵子、朝比奈節子、飯島宣昭、岩井千鶴 片見礼子、木田裕通、中山和明、根本志枝、野村俊光、 間根山知己 欠席委員 飯村香代子 市出席者 飯泉都市建設部長、小林参事兼上下水道課長、大澤課長補 佐、坂本課長補佐、柳橋係長、横塚主幹
議事	(1) 令和5年度水道事業会計決算報告について (2) 「水道事業に係る広域連携検討・調整会議」の検討状況について
議事概要	<p>1 開会 午後1時30分</p> <p>2 都市建設部長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 令和5年度水道事業会計決算報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が令和5年度水道事業会計決算について業務状況、経営状況、事業概要等を説明し、次の意見があった。 <p>【意見】</p> <p>委員 漏水箇所の発見方法を教えてほしい。</p> <p>事務局 漏水箇所の調査には、音聴棒を使用して行う。漏水していると水道管がわずかに振動しているので、地中に音聴棒をさして音を探す。昼間は、宅地内に入らせていただき、量水器付近の給水管にて漏水箇所を調査しているが、深夜は、道路上で調査している。</p> <p>委員 緊急時給水拠点確保事業について、「地震に強い耐震管」を整備したとのことだが、能登半島の大地震発生後の報道によると、耐震管であっても壊れていたのでは、絶対ではないのだなと思った。</p> <p>会長 最近、地震が多いので上下水道課としては耐震化等どう考えているか。</p> <p>事務局 水道管路の耐震化状況は、市内管路約469kmのうち約7%が耐震管で、継手が耐震適合性を有する管が約13%になり、全体の約20%が耐震化整備済みといえる。また、水道本管（300mm以上）の基幹管路</p>

	<p>については、市内全約 48 kmのうち約 55%が耐震化済みである。今後も、基幹管路を中心に耐震化整備を進めていきたい。</p> <p>事務局 先ほどの能登の耐震管破損の事例について補足する。水道管は管と管の継手部分が弱く、地震等で、地盤が隆起したりするとそれがずれて破損になる。耐震管はその継手部分を柔軟なものに改良しており、多少のずれにも耐えられるようになっている。しかしながら、先の大地震のように大きな地層変動で地中がずれてしまった場合は、管そのものが分裂し、耐震管であっても壊れる可能性はある。現状の水道管より強度のある管にすることで、安全に配水できるよう整備を進めていく。</p> <p>事務局 能登の事例では、破損した水道管の復旧をする際、水道本管は割と早く復旧できたが、宅内に引き込む給水管の多くが破損しており、水道の供給に時間がかかったということがあったようだ。宅内への給水管も現在では耐震に強い柔軟な素材を使用したものが開発されているようなので、そういうものが普及していけば、より災害時のリスクは減る。</p> <p>会長 災害時に、断水した場合の給水体制を知りたい。</p> <p>事務局 つくばみらい市では給水車を 3 台所有している。災害時および断水時に即対応できるように準備している。</p> <p>会長 生命に一番大切なのは水なので、災害時に早急に対応できるよう努めてもらいたい。</p> <p>(2)「水道事業に係る広域連携検討・調整会議」の検討状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局が茨城県の水道事業に係る広域化について、広域連携検討・調整会議の開催状況、会議における検討状況や広域連携シミュレーションを説明し、次の意見があった。 <p>【意見】</p> <p>委員 浄水施設と配水施設の違いを教えてほしい。</p> <p>事務局 浄水施設は、その施設において各取水井から汲み上げられた井戸水を、浄水し水道水として配水まで行っている施設である。配水施設は、浄水された水道水を配水するのみの施設。</p> <p>広域化後は、各市町村の浄水施設を廃止し、県の企</p>
--	---

	<p>業局が新たに浄水施設を構築し、各市町村へ送水し、各市町村の施設において配水のみを行うようにする。</p>
委員	地下水の施設はどうするのか。
事務局	<p>現在、市内には地下水を汲み上げる施設があるが、これを廃止し、県が、河川から汲み上げた水を浄水し、それを当市は受けて、市民へ配水するようにする。但し、広域化後すぐに取水井施設を廃止するのではなく、施設の耐用年数をむかえるまでは運用していく。</p>
委員	東京都のようになるということか。一般の市民は地下水を水源にしていると思っている。わかるように説明してもらいたい。
事務局	つくばみらい市では地下水の井戸が 12 か所あり、現在はその地下水を汲み上げたものと、茨城県企業局から受水した水をブレンドしたものになる。
委員	実際、広域化が開始されるとしたら、市民にもわかるように、広報紙等により広く周知していただきたい。
会長	つくばみらい市における水源について、県水がどこから運ばれてきているのかなど、最初に説明していただきたい。市民にはわからないと思う。
委員	広域化の範囲を教えてほしい。
事務局	<p>茨城県で進めている広域化は、最終目標は一県一水道だが、現在は段階的で、4つの地域に分けて、話し合いを進めている。つくばみらい市は県西圏域に該当し、水戸市以外の全市町村が広域化の検討をしている。</p>
委員	自分の住んでいる近くに水源があるイメージだが、広域化になり、県から水道を持ってくる場合、浄水施設が遠くなり、つくばみらい市に配水されるまでに時間がかかりそうな気がする。災害等にあった場合、不安だが、近くに浄水施設が整備されるのか。
事務局	<p>災害時、水源が途絶えた場合、広域圏内の複数の施設から送水してもらえそうなバックアップ体制の整備を県へ要請している。</p>
会長	広域化後に、県西の浄水施設に問題が生じ、水の供給が不可能になってしまった場合、県南の施設から水の供給をしてもらえるのか。

	<p>事務局 県南と県西の連絡管は整備中であり、非常時等に供給してもらえるような体制にはなると思われる。詳細なことはまだ検討中である。</p> <p>委員 広域化についてはメリットが大きいのだと思うが、資料にはデメリットも記載してもらいたい。</p> <p>事務局 承知した。</p> <p>5 その他</p> <p>・委員から次の意見があった。</p> <p>【意見】</p> <p>委員 日本のように水道の蛇口から出た水を飲める国は世界でも少数だと聞いており、貴重な水なので節水すべきということをアピールしてほしい。将来的に料金を値上げしなければならなくなった場合、まずは、飲み水として使用できる水質の水を作っているということを前段として周知した上で、料金改定の話しをすべきと考える。</p> <p>事務局 現在、人口が増えているが、あまり水道収益が上がらないというのは、市民の節水意識が高くなっている傾向にあるといえる。今後も貴重な資源である水の節水について周知できるよう努めたい。</p> <p>委員 久保浄水場について、新しい施設が完成したと思うが、旧施設は使用しているのか。</p> <p>事務局 電気設備等を旧施設から新しい施設へ移している最中であり、将来的には取り壊す予定だが、低区配水池が竣工当時のものになり、老朽化が進んでいるため、配水池の改修もしくは新設が先になる。</p> <p>6 閉会 午後2時45分</p>
配 付 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度水道事業会計決算報告について ・「水道事業に係る広域連携検討・調整会議」の検討状況について
そ の 他	傍聴人 なし